

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	脳的一般原理に基づく認知機能の多様性発生機序の理解と発達障害者支援
研究代表者	長井 志江 (東京大学・ニューロインテリジェンス国際研究機構・特任教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、人の認知機能における個人の多様性とその発生機序の解明、及び発達障害者支援を目的としている。</p> <p>脳的一般原理とされる予測符号化理論に基づいて、人の個性が予測精度や階層性などの変動を通して連続的なスペクトラムとして表現できるかを検証する。仮説検証の課題として、様々な認知機能の基盤である自己認知に注目することで、異なる感覚様式や認知レベルにおける多様性がどのようにどこまで統一的に説明できるのかを明らかにする。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>認知発達ロボティクス、認知神経科学、発達障害当事者研究を融合した学際的なアプローチによって、多様性の発生機序を系統的に理解しようとすることは、学術的な意義が大きい。また、発達障害者の支援を目指した、社会的に意義のある研究であり、本研究の遂行により、ニューロダイバーシティ社会の実現に大きく貢献することが期待される。</p>